

1 活動名

わたしたちの町のたからもの ～平荘小学校狂言発表会～

2 活動のねらい

- 講師や平荘狂言教室後援会の方々との関わりを通して、地域との連携を大切に「地域の中の自分」「地域に支えられた自分」の自覚を持ち、地域を大切に、地域を誇りに思う気持ちを育てる。
- 狂言を演じることで、古典芸能の良さや面白さを理解するとともに、我が国の伝統文化への関心を高める。

3 効果的に実施するための体制整備について

● 外部指導者の役割分担の明確化

- ➡ カリキュラムを工夫し、地域住民が中心となった平荘狂言教室後援会の役割分担を明確にした。

● 校内の役割分担の明確化

- ➡ 狂言の主な指導は外部講師に任せ、講師がいない日の練習は学級担任や教務担当が行い、専科教員で浴衣や袴の衣装合わせ、会場設営前の掃除分担などを担い、学級担任一人がかかえ込まないような体制を作った。

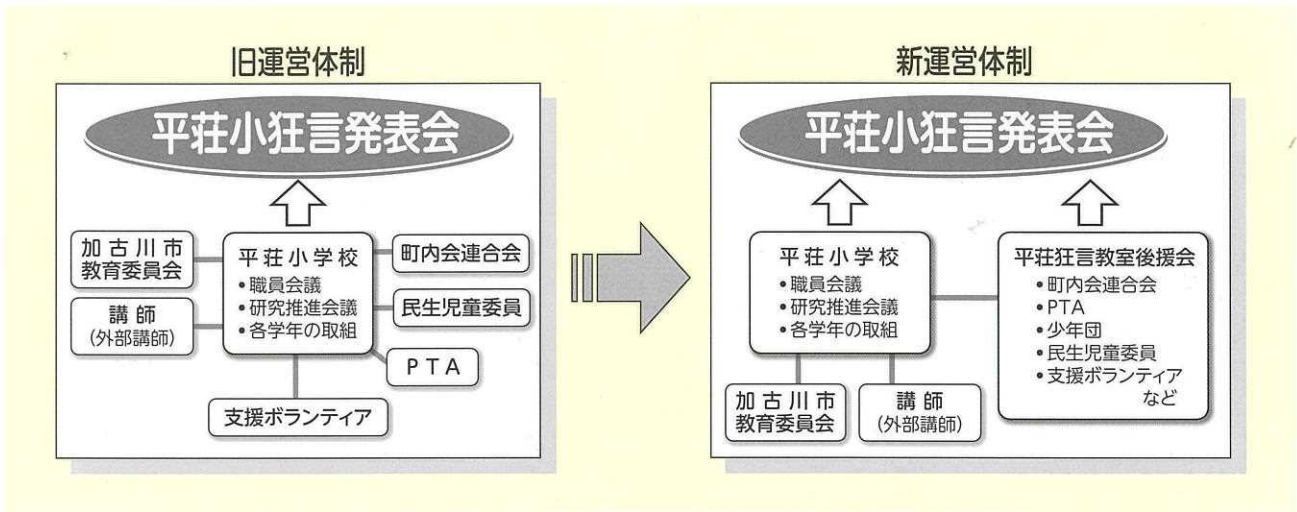
4 地域人材との効果的な連携について

- ◆ 講師(協力者) 講師：大蔵流狂言方 山口耕道氏 (篠山市)
平荘狂言教室後援会：役員37名、会員439名・23事業所
《平荘狂言教室後援会は平成28年度に発足》
- ◆ 依頼方法 講師：直接依頼
平荘狂言教室後援会：常任幹事会で校長から依頼
- ◆ 依頼回数 講師の来校：計6回(平成29年度)
平荘狂言教室後援会：計2回(リハーサル・発表会当日)
- ◆ 連携の工夫 平荘狂言教室後援会の常任幹事会で、意見交流の場を設定



《平荘狂言教室後援会について》

- 狂言発表会をするにあたり、民生児童委員や交通安全指導のボランティアの方々に、着付けや来客のための駐車場整理をお手伝いいただいていた。その際、学校からそれぞれの団体に個々に直接お願いをしていた。
- 地域の神社の能舞台を使って15年以上続いている学校行事であり、地域住民の楽しみになってきていた狂言発表会を、地域あげて支えようという動きから、町内会連合会が中心となり、平成28年度発足した。
- 年4回の常任幹事会を中心に、発表会の運営を、着付けや会場準備などの準備面や資金面で支えていただいている。



5 各教科等における指導方法の工夫について

- 『ぼくの町のたからものー平之荘能舞台ー』（兵庫版道徳教育副読本小学校3・4年版「心きらめく」平成23年3月発行）を6年生で再度学習し、学校の伝統である狂言を引き継ぐことに誇りをもって取り組めるようにしている。
- 図画工作科（家紋調べ・平之荘神社の写生・画用紙での肩衣(かたぎぬ)作成や図案作り）、社会科（伝統文化についての歴史学習）、総合的な学習の時間（発表会練習）、特別活動など、各教科等にわたり学習計画を立て、教科等横断的に学習を進めている。特に肩衣作りでは、歴代の肩衣を参考にイメージを膨らませたり、モデルとなる絵を拡大して描きやすいように罫線を引いたりして、満足できる作品になるよう作成方法を工夫した。
- 狂言の講師の山口先生と6年生児童との練習会の様子を5年生児童が見学する機会を設け、次年度に向けて一層の意欲付けを図っている。

加古川市立平荘小学校の実践

6 活動の内容(狂言発表会に向けて)



<歴史学習(社会科)>
日本の伝統文化について学ぶ



<写生会(図画工作科)>
狂言を演じる能舞台、心を込めて描く



<山口耕道先生との練習会(総合的な学習の時間)>
プロの表現者としての厳しさと優しさをもって、5回の練習会で丁寧に指導していただく



かたぎぬ
<肩衣づくり(図画工作科)>
組立、家紋、背中の絵と、丁寧に作り続ける



<能舞台の清掃(特別活動)>
感謝の気持ちを込めて清掃する



<会場準備>
後援会と一緒に



<開会を待つ
全校児童・
地域の方々>



<柿山伏>



<附子>



<猿唄>

7 成果と課題

- 学校と地域の協働体制が進み、衣装の準備や着付け、リハーサルや発表会の会場準備等、地域の方々の協力を得やすくなり、スムーズな運営ができた。
- 6年生の児童は、狂言発表会が多くの地域の方々の協力を得て開催されることを知り、あらためて支えてくださる方々への感謝の気持ちをもつとともに、地域を誇りに思う気持ちをもつことができた。
- 6年生の年間カリキュラムのさらなる改善を図るとともに、5年生以下の学年についても、狂言学習を見据えた取組の充実を図る。
- 狂言だけでなく、身近な伝統文化にも目を向けさせ、神社仏閣などの歴史的な建物や日本の音楽についての学習につなげる。
- 地域の方々の支援に感謝し、「自分ができること」を考えさせる。